

手を洗おう会 aphpw 会報

Association for the Promotion of Hand-Washing

— 特定非営利活動法人 APHPW 十六周年 —



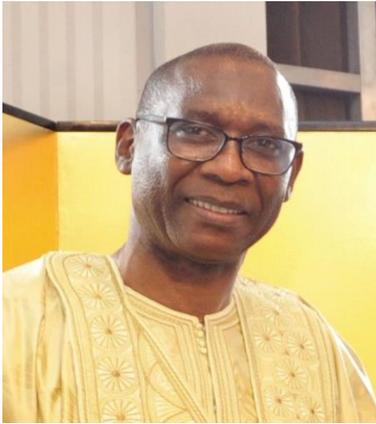
グランプリ(大賞) テーマ:「希望」 —ナツキタ・チャイピラヤピタクちゃん-9歳- の作品<タイ>

< 洗おう手を！ 繋がる笑顔！！ >

第十五版 2018年9月発行



『手を洗おう会』へ感謝を込めて!!!



(中略) For all that, it pleases me, on behalf of my Government and of my own to thank the APHW most warmly and whole-heartedly.

ARIGATO GOZAIMASHITA!

Cheikh Niang

Ambassador of Senegal to Japan

セネガル大使としての任期を終え、日本を間もなく去る今、妻と私はこの国のすばらしい人々との出会い、出会えた喜びを噛みしめております。

日本人の美德の中で一際目立つのは、「寛大さ」です。日本でこのような長所のお手本を挙げるとすれば、迷わず[手を洗おう会]を選ぶでしょう。

セネガルの貧しく恵まれない子どもたちに対し、手を差し伸べる会員の皆様の団結心から生まれた立派な行いにより、「手を洗おう会」は多くの人々を貧困から救うと同時に、集団の衛生促進に貢献されてきました。

そのような皆様の活動に対し、政府を代表し、また自己の名において、暖かく、そして真心をこめて感謝の気持ちを申し上げます。

ありがとうございました!

2018年6月7日 東京

シェール ニヤング
駐日セネガル大使

— 2018 年会報目次 —

- P1 : 駐日セネガル大使・シェール・ニヤング氏の離任挨拶
- P2 : ベトナム APHW 関係者一行来日 —森田 ティナ
- P3 : 世界子供絵画紹介 2016 年『私の好きなこと』 —古屋 典子
- P4 : 世界子供絵画紹介 2017 年『希望』 —古屋 典子
- P5 : 2018 年 世界子供絵画展 —とりのみ わかえ
- P6 : ベトナムの活動 & セネガルの活動 —佐藤 里美
- P7 : 国内活動 & タイの活動 & チャリティランチ 15 周年 —星 直代 & 北島桂子
- P8 : セネガルの今 —高松 章二
- P9 : フランス革命と女性達 第一話:「ボンパドゥール夫人」—白石 正明
- P10 : 同上
- P11 : Takako お料理教室 —二階堂 多香子
- P12 : 子供絵画募集&会費納入のお願い
- P13 : 会計報告(2017年1月から12月)

— ベトナム APHW 関係者一行来日 —

「手を洗おう会」は、2012年にフランス・ブーロニューの森で一か月間開催した「世界子供絵画展」にセネガルの入選者2人、ハディム君とママジャーラちゃんを招待し、絵画展やパリを楽しんでもらいました。

本年は六年ぶりに世田谷美術館での絵画展開催に、ベトナム活動を支えるリエン支部長と絵画入選者ホアちゃんを招待いたしました。大阪に到着したベトナムの大切なお客様6人は、7月29日、35度を

超える灼熱の中、新幹線に乗り大阪より東京にお越しになりました。

古屋理事長と星理事たちが浅草【写真右】など観光案内をして

その夜の東京銀座【写真下】の APHW 理事歓迎夕食会で私も初めてご対面をしました。東京の4日間は、我が家に滞在いただいたのですが、心あるベトナムの良き友人は懐かしい昔からの友達のように感じ、これからの交流が楽しみになりました。

翌日7月30日は、ハトバスに乗って富士山観光を計画。よって夜遅くに我が家に到着した一行は、翌日に備え早めの就寝。

そして、この旅のメインでもある7月31日、我が会の★世田谷美術館「世界子供絵画展」オープニングセレモニーにご出席して頂きました。リエンさん、ホアちゃんは、ベトナムの民族衣装での出席でとても素敵でした。

ベトナム支部長リエンさんの熱い子ども達への想いが伝わり私も胸が熱くなりました。

ベトナムのフォー【写真右】を本格的味付けで振る舞って頂き感謝でした。

今後、今以上に強い繋がり信頼で活動が出来る確信を持ちました。



8月1日は、焼肉店で楽しい夕食を古屋友貴会員が予約してくれました。友貴さんは訪越の折、APHW ベトナムの架け橋になってくれています。同日、ホアちゃん家族は東京ディズニーランドへ。きっと楽しい時間だったことでしょう！

8月2日とうとうベトナム一行は京都・大阪へ！電車にも慣れ無事大阪へ！

大阪では関空まで送って下さった「さをり織り」の持田普子夫妻と鹿嶋淑子会員の心温まるアテンドに一行は、大変感激していました。

日本での滞在が無事に楽しく過ごせた事で私も心から安堵です。

Thank you very much!

森田 ティナ記



<ベトナムのリエン夫妻とホアちゃんのご家族とレストラン、銀座の「俺のフレンチ」での夕食後>

—世界からの優秀作品 タイトル:私の好きなこと (第13回募集) 紹介(一部)—



最優秀賞 セネガル ムッサ・シ君 11歳



aphw 賞 日本 清水 遙君 11歳



優秀賞 フランス 本野 Marie ちゃん 9歳



優秀賞 日本 山崎 佳ノ祐君 11歳



最優秀賞 日本 加納 悠珠ちゃん 10歳



優秀賞 タイ ラクウィット君 11歳



ポスター賞 ベトナム リンちゃん 6歳

—世界からの優秀作品 タイトル:希望 (第14回募集) 紹介(一部)—



aphw 賞 セネガル ンジョロ・サンブちゃん 8歳



優秀賞 フランス ソフィ・チェちゃん 11歳



優秀賞 日本 市原 拓真君 12歳



努力賞 日本 小綿 音愛ちゃん 12歳



最優秀賞 タイ パファマちゃん 7歳



最優秀賞 日本 町田 柳菜ちゃん 8歳



優秀賞 ベトナム ホアちゃん 6歳



—2018年 世界子供絵画展—

～絵のちからが笑顔をつなぐ～

6月1日から6月6日までの6日間、川崎教育委員会協賛により高津市民ホールにて、また7月31日から8月5日までの6日間は世田谷美術館にて、「世界子供絵画展～絵のちからが笑顔をつなぐ」を開催いたしました。

今回は2016年『私の好きなこと』、2017年『希望』の各テーマで、セネガル、タイ、ベトナム、フランスそして日本から応募いただいた1000点に及ぶ作品の中から入選作品約100点の展示の他、「ベトナム特別展」として約16作品、他、会の活動報告や小学生の制作した「手を洗おう会のあゆみ」などの展示も加わり、とても見ごたえのあるものになったのではと思います。



また、世田谷美術館のオープニングセレモニーには、2017年度の優秀賞を受賞したベトナムのホン・ホアちゃんをご招待。ホアちゃんのご一家も一緒に来日されました。同行されたベトナム支部のリエン支部長もベトナム民族衣装アオザイを身にまといご臨席くださり、華やかなセレモニーとなりました。(写真左)

日曜日にはイベント企画として、北里研究所病院副院長常松令先生がご趣味のカメラについての専門家を超える卓話「真実を写す写真の撮り方」を、また会の理事、牧香代子氏が学生時代に落研に所属されていた隠れた才能を披露(写真右)。落語で皆様に笑顔を届けて下さいました。



会期中、高津市民ホールには約700名、また35度を超える猛暑が続いた世田谷美術館へも300名の方にご来場いただきました。

お子様の入選作品を見ようと来場されたご家族はもちろん、偶然に展示をご覧になって下さった方も多く、セネガルやベトナムへはクレヨンなどの購入資金も援助させていただいていることや、各国の手洗いの現状についてお話しすると、皆様、一層の興味を持って、子供たちの絵をご覧になって下さいました。

「手を洗うことがあたりまえの日本と、そうでないセネガル。手を洗うという習慣がない、環境が整わない国もあるのだと改めて知りました。」

「タイの色あいの明るさ、ベトナムの人や動物の多さに心の豊かさを感じました。」

「絵をとおして、かいた人の気持ちが伝わってきた。」

「子供たちの絵、創作物は自由で、何ものにもとらわれず、どんな美術の教科書よりも素晴らしいと思います。子供たちの豊かな発想、表現力に心動かされました。」

など、私たちの会の原動力となる嬉しいご感想をたくさんいただきました。

本年度2018年の子供絵画展の応募テーマは『毎日見る風景』です。絵画展は2年後の開催となりますが、世界の子供たちが毎日見る風景はどのような作品なのか、どうぞ楽しみに！次回の絵画展は、是非会場で、直接子供たちの絵のパワーを感じていただけたらと思います。

とりのみ わかえ記

—ベトナムの活動—



手を洗おう会ベトナム支部長リエン氏のお嬢さんキティちゃんが、手洗い指導や絵画収集等で大活躍されていましたが、カナダの大学に進学されました。おめでとうございます。また有難いことに、リエン氏の紹介で、国立銀行勤務のリン氏が当会の活動に新しく参加して下さることになりました。

2017年の秋には、ベトナムの平和村で、トイレと手洗い場改修(写真右)が出来ました。この事業は、彦根ロータリークラブが協賛下さり、予算23万円の半分を負担していただきました。当会では、10月に開催された15周年チャリティランチの収益金と寄付額の合計115,000円をこの改修資金としてベトナムに送金しました。12月19日には、完成式が行われ、リエン氏と「さをり織」持田夫妻、彦根ロータリークラブの代表の方々が出席されました。12月21日には、「さをり織り」のファッションショーが行われ、平和村&友好村の子どもたちを招待することが出来ました。



2018年3月には、日本から会員も参加して平和村、友好村やトゥックニエム校で絵画表彰式及び手洗い支援(写真上)も出来ました。寄贈した友好村の手洗い場での手洗い指導デモンストレーションには、フランスやインドネシアから来たボランティアも参加し(写真右)「手を洗おう会」の活動を世界に知ってもらえる有意義な機会となりました。

佐藤 里美記



—セネガルの活動—



2018年1月に、高松監事がセネガル Ker Docteur Samba katy 校を訪問しトイレの様子などを視察報告くださいました。

また、あしなが育英会セネガル事務所代表の中水智之氏が、あしなが育英会が支援している子どもキャンプ場や、チャム支部長が勤務する同上小学校で、手洗い指導をしてくださいました。

セネガルの子供たちは絵を描くことが少なく、寄贈したクレヨンと色鉛筆を奪い合いながら真剣に描いてくれました。一生懸命描いてくれた絵は、高松監事により絵画搬出できました。2月の東京ウイメンズプラザでの総会には、あしなが育英会の中水氏も、タイトル「希望」の絵画12枚を持ち帰られ、キャンプ場での手洗い活動の様子を、ビデオを使って報告くださいました。

佐藤 里美記



<本年度募集タイトル「毎日見える景色」を描く子供達> <高松監事の訪セ時のあしなが育英会セネガル事務所での授賞式>

—国内活動（区立高輪台小学校訪問）—

7月2日に国内活動として、港区にある区立高輪台小学校を6名で訪問いたしました。

この訪問は理事の卒業校というご縁から

学校側の「外国のことを学ぼう」という授業と、当会の事業目的である、「手洗い促進及び海外文化交流」が一致して実現しました。対象は一年生の3クラス 107名ですが、この日はPTA 参観日でもあり、親御さんも一緒です。先ずセネガルの手洗いがテーマの紙芝居(写真上右)から、正しい手洗い方法の教示。次にセネガル人のワガンさんの自国の話とセネガル太鼓の演奏(写真上左)。そして新会員の宮本真里さんとアフリカの踊りを一緒に踊るという行程でした。後日学校から届いた生徒の感想文の内容は、「手洗いについて初めて詳しく習って良かったし、他の人にも教えたい」「いつかセネガルへ行ってみたい」「セネガル太鼓は初めて聞いたり見たりした。大きな音は驚いたが小さな太鼓は面白いし、踊りは習ってみたい」等などでした。学校や当会の目的がしっかりと生徒達に受け止められた事が伝わってきます。楽しい意義のある活動となりました。又このような国内活動は秋には神奈川県内の学校でも大々的な予定があり、さらに活発な活動をいたします。



—タイの活動—

タイからは毎年、力のこもった絵画が沢山届きますし、絵のファンも多いのですが、常駐の現地スタッフがおらず、もどかしい所もありました。

しかし今回は会員の古屋友貴氏が現地入りし、入選作品の表彰と賞品の授与式を執り行い、顔の見える交流がなされました。又、タイで絵画指導下さっているピチャイ先生の手作り横断幕(写真右)でのお迎えを受け、現地での期待の大きさもわかり、今後の活動にとっても良い結果がでました。



星 直代記

—チャリティ ランチ APHW 十五周年—



2017年10月12日のAPHW15周年秋の祭典は、丸ビル36階のフレンチレストラン「モナリザ」で開催。入口の壁の大きなモナリザの絵が私達を迎えてくれました。

最上階なので、皇居広場 新宿副都心 六本木 スカイツリーまで展望できて絶景です。67名が集いました。

主賓にあしなが育英会会長の玉井義臣氏をお迎えして祝辞を頂き、NPO法人開設時に主導的役割を果たして下さった八田拓三氏も馳せ参じて下さり、藤井陽子氏のフルート演奏を聴きながら宴は進行しました。

全粒粉を使っているパンには、モナリザの焼き印が(写真左上))押されていました。食器は、オーナーシェフがデザインし、器の模様が料理の一部になって見応えがありました。デザート皿は数種あり、時計の3時が描かれている器には5種類のデザートが配されていました。お楽しみのラッフル景品の殆どは出席者からの寄贈品です。十五周年のチャリティの収益は彦根ロータリークラブとの協賛で、ベトナム平和村のトイレ&シャワー室の改修費に賄われました。

北島 桂子記

—セネガルの今—

2020年、東京オリンピックの年に、セネガルは独立60周年を迎えます。同時に日本との国交樹立60周年となります。セネガルの首都ダカールは、その地をゴールとする「パリ・ダカール・ラリー」でかつて日本の自動車やドライバーが大活躍したことで有名ですし、最近ではサッカーの世界カップでの対戦相手としてセネガルを知る人も多いでしょう。しかしながら、セネガルはまだ日本にとっては遠い国に違いありません。

そのセネガルに私が初めて出張したのは、1982年、23歳の時で、その後36年間に少なくとも80回以上渡航したと思います。初訪の頃、セネガルの首都ダカールは既にアフリカでも有数の大都市。現代的な都市というよりも歴史や文化の香りを強く感じる趣のある街でした。そうしたダカールらしさは今でも残っていますが、30年以上を経て多くのビルが建て替えられ、街中の立体交差や拡大する市街地、郊外へ向かう高速道路によりダカール首都圏の景色は大きく変わりました。まだまだ経済的に豊かな国ではないセネガルですが、アフリカでは稀有といてよいほどに民主的かつ政治的に安定した国という評価を得て海外から多くの投資があり開発が進んでいます。人口は、1980年代の終わりに700万人程度だったものが、最新の統計では1,500万人を超えており、人口減少に悩む日本からは想像できない勢いで成長を続けています。成長するダカールとその周辺には数百万の人口が集中して首都圏を形成しています。



後述する私の仕事のゆえにダカールだけでなくセネガルの農村の風景も数十年前から見えてきました。昨年も東部タンバクンダ州の集落を訪ねる機会がありましたが、そこで見た景色は発展するダカールの変貌ぶりとは異なり数十年前とほとんど変わらないのです。伝統的な暮らしと自然が守られているわけでもありますが、都市部と村落部の格差が益々大きくなっていると感じます。昔と大きく違うのは、全国に携帯電話網が整備され、地方の集落でも携帯電話が普及している点です。

また、写真のように給水施設が整備された村では、清浄な水を村の中で容易に得られるようになったことで暮らしは大きく変わりました。同様に医療施設や学校の整備も進められていますが、都市部の発展ぶりに比べると村落部での開発の速度は遅く、生活はまだまだ厳しいと思われます。そうした状況がダカールなど都市部への人口流入を促しているわけでもあります。

セネガルで私は、コンサルタントとして日本政府による技術協力や資金協力として実施される飲料水や生活用水供給に関わるプロジェクトに携わってきました。日本の協力によるプロジェクトは水道施設のない地方村落に給水施設を整備して住民に安全な水を安定して供給することで生活の質や健康の改善に大きく寄与しています。例えば清浄な水がなければ手を洗うことができませんが、給水施設が整備されて身近に清浄な水を得られることでそれが可能となり、人々の衛生に対する正しい意識を醸成することができるようになります。一方で、正しく手を洗う習慣がなければ、せっかく得られた清浄な水が衛生面の改善に十分活かされないわけです。これは村落部だけではなく、水道施設から清浄な水を得られる環境が整っている都市部でも手洗いの習慣がなければ同様に、手を洗おう会が進める活動は都市や村落に関わらず清浄な水を使った衛生的な生活の普及という点で重要な役割を果たしています。

発展を続けるセネガルにおいて、都市部でも村落部でも全ての人にとって清浄な水を安心して使える環境が整うと共に、手洗い習慣の普及という地道な衛生教育が人々の安全で豊かな暮らしを支える活動のひとつとして続けられることを願います。

高松 章二記

—フランス革命と女性達—

東京でも毎年「パリ祭」なる催しが行われる。フランスの革命記念日を一体誰が「パリ祭」と名付けたのか、フランスではその日付通り“Quatorz Juillet”（7月14日）と呼んでいる。だが、当日のパリは文字通り「お祭り」騒ぎであり、街の要所々々では深夜まで踊り狂う人々で賑わう。つまりこれは日本の感覚では夏祭りのようで、その意味で「パリ祭」は名訳と言うべきかもしれない。恰も、7月14日は日本の「旧盆」であり、せめてこの記念日を祝って盆踊りで楽しむのも良いのではないか。

フランス革命は7世紀頃から西欧世界を支配した「絶対王制」を否定し、民主的政治体制へ移行する過程で起きた画期的「事件」であった。その変革の口火を切った日（1789年7月14日）を基点として約10年間続いた「革命」の嵐の中で、男女の区別なく断頭台は多くの命を奪ったが、この混乱の最中に生き、今なお我々の心を打つ多くの魅力的女性たちの物語が伝えられている。その中から幾つかを選んで紹介することにした。やや退屈な部分もあるかも知れないが、時代を超えて共感を呼ぶ「自立した」、「誇り高く」、「逞しい」女性達の生き様を噛みしめて頂きたい。

第一話 革命前夜の陰の女性宰相 「ポンパドゥール夫人」

マダム・ド・ポンパドゥール（1721～1764）

正式名：ジャンヌ＝アントワネット・ポワソン ポンパドゥール
侯爵夫人

(Jeanne-Antoinette Poisson, marquise de Pompadour)

「ポンパドゥール」は横浜元町で生まれたパン屋さんである。同社のHPにある由来によれば、「ポンパドゥール夫人」は18世紀のフランスで芸術と文学を愛し且つ美食家で、フランスで初めて本格的にパンづくりに取り組んだ女性、とある。以下に述べるポンパドゥール夫人と同一人物に違いないが、同女史は「パン作り」の功績以上にフランスの歴史に多大な足跡を残した人物である。ポンパドゥール夫人は、啓蒙思想の先駆者として格別な才能に恵まれ、マリヴォーやモンテスキューと文学を語り、ヴォルテールと文通して哲学を論じ、歌と踊りと芝居が得意で、モリエールの芝居やリュリのオペラにも自ら出演して喝采を浴び、クラヴサン（ハープシコード）を弾き、絵を描き、版画を作り、会話は才気に満ちて人をそらさず、宮廷での晩餐会やサロンでは完璧なホステスであったといわれる。



マダム・ド・ポンパドゥールという名前は、平民であった彼女を国王ルイ15世が公式寵姫（注参照）として受け入れるため、相続者の絶えたポンパドゥール侯爵領を買い与えて「ポンパドゥール侯爵夫人」の称号を付けたもので、元より本人の名前ではない。本名はジャンヌ＝アントワネット・ポワソン（Jeanne-Antoinette Poisson）と言い、1721年パリ2区にあった銀行の書記の娘として生まれた。母親が美形で、「叔父」と呼ばれる政府財政徴収官のシャルル・ド・トルヌエムがジャンヌをポワシー修道院に通わせ、貴族以上の教育をしたという。シャルル・ド・トルヌエムは母親の愛人であったと言われており、ジャンヌは21歳の時トルヌエムの甥で徴税請負人シャルル＝ギョーム・ル・ノルマン・デテジオールと結婚した。その後、超一流サロンに出入りするうちに、1744年宮殿の仮面舞踏会で国王ルイ15世の目に留まり、3か月後にはルイの愛人となり、1745年にはポンパドゥール侯爵夫人として国王の公式寵姫となった。同夫人は頭脳明晰な才女で、ルイ15世の政治を補佐し、公妾としてよりも国王の片腕として、また親友としての生涯を送った。

一方、元夫のシャルル＝ギョームはフランス一有名な「寝取られ男」の称号で呼ばれ、終生彼女を許すことはなかったという。

ポンパドゥール夫人は、フランス革命の25年前に病死しているのに、革命の修羅場も知らずに思い通りの生涯を閉じた。しかし、彼女の生涯を辿って見ると、フランス革命と全く無関係だったとは思われない。私的には、彼女はフランス革命に大きな影響を与え、重大な原因を作ったA級戦犯の一人であったと考える。最大の責任は、フランス王室に全ての近代政治思想の根源となる**啓蒙思想**を取り入れたことで、革命派は王党派に説明する場面で「ポンパドゥール夫人も認めるところだ」という言葉を多用したという。更に、彼女の**浪費癖**はフランス王朝の屋代骨を揺るがすほどの凄まじさで、おそらくその額において後のマリー・アントワネット王妃の贅沢三昧による出費額より桁違いに多額であったと想像され、革命の直接的原因となったブルボン朝の財政破綻を導く大きな要因ともなっていると推定される。尤も、彼女の散財そのものは全体として「社会投資」と見做されるものが多く、数多くの宮殿建設（現大統領官邸のエリゼ宮も彼女の居宅の一つ）、陸軍士官学校の創設、セーブル焼きの研究所建設、百科全書の編纂、芸術家・学者・建築家等のパトロン等々の事業は後世に残る文化遺産となっている。しかし、こうした財政支出が結果として王国の財源枯渇を招いたことは事実であり、次期国王ルイ16世時に革命の最大の原因となったとするならば、「革命とは関係ない」とは言えないだろう。更に、当時プロイセン帝国が勃興し、旧王国を脅かす存在となったため、フランス王国はロシア帝国、オーストリア帝国と共謀してこれを殲滅せんとした所謂7年戦争において、フランス国王に代わり、ポンパドゥール夫人が主導して、ロシアのエリザベータ女帝、オーストリアのマリア・テレジア女帝と策定した共同謀議は「3枚のペチコート作戦」と呼ばれ、プロイセン帝国のフリードリヒ2世を殆ど破滅するまで追い詰めた。結果は、エリザベータ女帝が急逝したため失敗に終わったが、この「**外交革命**」が齎した結果として、それまでは仇敵同士であったルイ王朝とハプスブルグ家の間の融和が生まれ、フランス王太子ルイ・オーギュスト（後のルイ16世）の妃としてマリア・テレジアの末娘マリー・アントワネットを迎えることになった。この**7年戦争の戦費負担**に加え、この**戦略結婚**もまたフランス革命の重要なモチーフとなり背景となっている。尚、プロイセンのフリードリヒ2世は大の女嫌いであり取り分けポンパドゥール夫人を蛇蝎のごとく嫌い、彼の飼い犬にポンパドゥール夫人の名前”ジャンヌ”を付けて、ことあるごとに蹴っ飛ばしていたという。

ルイ15世は、女性に対する程には政治には関心を持たず、ポンパドゥール夫人の裁量に大きく依存していた。一方、ポンパドゥール夫人は愛妾としての役割は5年間ほどで、むしろ政治に対する関心が高く、1754年、ルイ15世との間に生まれた娘のアレクサンドリーヌを亡くしてからは「愛人」としての関係よりも「信頼できる友人」としての地位を築き、国王の関心を維持するためヴェルサイユの森に「鹿の園（Parc-aux-cerfs）」を設け、国王のための娼館とした。同娼館はポンパドゥール夫人の死後、公式寵姫となったデュ・バリール夫人の寵姫就任で閉鎖された。ポンパドゥールの語録として知られるのは、ルイ15世に代わり政治を仕切ることになったとき放った「**私の時代が来た！**」である。また、同時代宮廷画家として一世を風靡したフランソワ・ブーシェは多くのポンパドゥール夫人の肖像画を描いたが、ポンパドゥール夫人の死後ブーシェは、その墓碑をデザインして以下のように刻んだ。

「十五年を乙女として、
二十年を娼婦として、
さらに八年を女衛（ぜげん）として
過ごしたる女、ここに眠る」

白石 正明記

注) **公式寵姫**：カトリックの国フランスでは国王の妾は認められず、15世紀中頃シャルル7世時、1名に限り公式寵姫を制度化した。以後、歴代の国王は寵姫を持ち、ルイ15世はポンパドゥール夫人と後任のデュ・バリール夫人を寵姫とし、その他多くの愛人もあり61名もの子供がいた。一方、ルイ16世は生涯マリー・アントワネット以外に寵姫も愛人も持たなかった。

—Takako お料理教室—

< クウエート料理から >

料理研究家 二階堂 多香子

私が三年半を過ごしたクウエートはアラブ湾岸諸国の一つ、ペルシャ湾の最奥にある小さな国です。小さくとも豊富にある石油資源ゆえに、とても豊かな国、豊か過ぎて世界のあらゆる美食も味わうことが可能な国です。

とは言え、イスラム教の戒律が厳しい国でもあり、やはりイスラムの教えに基づいたアラビア料理が主流です。元々は砂漠の遊牧民の国でありますので、限られたものを、知恵を尽くして食べるという質素な食生活を送っていた国だったはず。本来は羊の焼いたもの、チーズぐらいが大ご馳走だったのだと思います。それがいつしかペルシャやトルコ、インドそしてギリシャなどの食文化が混じり合い、アラブの食は作られて来ました。

今回ご紹介したのは、クウエートのマチブースという炊き込みご飯です。

インドのピリヤニに似た鶏肉の炊き込みご飯。カルダモンやクローブ、シナモン、クミンといったスパイスを効かせたご飯ですが、辛みは殆どありません。辛いインド料理といった感じでしょうか？ 私たちがいる間にも最高気温が60度になることもあったクウエートでは、防腐剤の役目も果たすスパイスや身体に良いハーブがあらゆる食べ物に加えられています。各家庭でそれぞれ秘伝のスパイスの配合がありますが、私のは、いくつかのクウエート人家庭の味の良いとこどりをして誰の口にも合うものになっていると思います。



☆ マチブース(クウエート風炊き込みご飯)

<材料—6人前> バスマティライス 3カップ サフラン 一つまみ 鶏もも肉 2枚
鶏ドラムスティック 5~6本 チキンブイヨン 4カップ カレー粉(あまり辛いもの
マドラスカレー粉など) 大さじ1 カルダモン(包丁の柄で潰しておく) 3粒 クローブ 2粒
シナモンスティック 1本 クミンシード 小さじ1 ローリエ 1枚 ししとう 8本 玉ねぎ 1個
オリーブ油 大さじ2 塩コショウ 適宜

<作り方>

1. バスマティライスは洗って30分位水に漬ける。サフランは大さじ2のぬるま湯に漬けて色出しをする。鶏肉に軽く塩コショウする。玉ねぎはみじん切りに。
2. フライパンを熱しオリーブ油を加え玉ねぎを炒める。しんなりしてきたらカレー粉、香辛料を加えて炒め鶏肉を入れる。色が変わったらずスープを加えししとう、塩少々を加えて強火であくを取りながら煮込む。15分位。
3. 米の水を切りざるに上げる。2)の鶏肉を取りだし残りのスープに米を加え米から1cm上位に水加減して火に掛ける。時々かき混ぜながら強火で煮る。
4. オーブンを220度に熱し取りだした鶏肉を焼く。こんがり焦げ目がつくまで
5. 3)の水気がなくなったら上にハシヨーと色の出たサフランを汁ごとのせ、ふたをして5分くらい弱火にして蒸し炊き。火を止めて蒸らす。

☆ ハシヨー(炊き込みご飯の薬味)

<材料—6人前> 玉ねぎ 1/2個 干しブドウ 一掴み 水

<作り方>

1. 玉ねぎをみじん切りにしフライパンに干しブドウとともに入れる。
2. 水をひたひたに加えて火に掛ける。強火で全体に色づくまで火を通す。水気がなくなる度に水を加えながらキャラメル色に仕上げる。





2018年度 第15回 子供絵画募集

今回は、各国の日常が垣間見られたらと子供たちの目に映る毎日の景色を描いてもらうことになり、「毎日見る景色」というタイトルで募集することになりました。本年もセネガル、ベトナム、フランス、タイ、そして日本などの幼稚園児及び小学生から個性豊かな絵を募集しています。

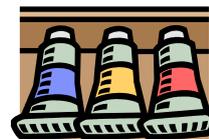
対象 : セネガル、ベトナム、フランス、タイ、日本など
世界の幼稚園児&小学生

題 : 「毎日見る景色」

画用紙サイ : 八つ切 (A3も可) : 38センチ×27センチ

画材 : 色鉛筆、絵具など何でも可

締切日 : 2018年11月30日 (金曜日)



子供絵画の問い合わせ先:

樋口 愛 メール: ailovebeugue@1999.jukuin.keio.ac.jp
電話: 090 - 4841-3443

送り先: 158-0087 東京都世田谷区玉堤1丁目18-35-405
NPO 手を洗おう会 事務所

会員の皆様へ

2019年度の会費納入のお願い

いつも「手を洗おう会 aphw」へのご支援ご協力に感謝いたします。

年会費 : 3,000円

振込み先 : ゆうちょ銀行

郵便局から振り込みの場合

記号 : 10060

番号 : 10384361

口座名 : トクヒ) テヲアラオウカイアピュー

他銀行からの振込みの場合

店番号 : 008 (ゼロゼロハチ)

口座番号 : 1038436

口座名 : トクヒ) テヲアラオウカイアピュー

*年度会員確認のため、12月15日までにお振込みをお願いいたします。

*領収書が必要な方は、下記担当までご連絡下さいませ。

連絡先: 佐藤里美 メール: sucremisucre@gmail.com

募金 「手を洗おう会」では石鹼や洗浄液などをセネガル、東北被災地、ベトナムの学校等へ寄贈するため、ご寄付を募っております。一口500円から上記の口座で受け付けております。

2017年度 活動計算書
 2017年1月1日 から 2017年12月31日まで
 特定非営利活動法人 手を洗おう会 aphw
 (単位:円)

科	目	金	額
(経常収支の部)			
I 経常収入の部			
1	会費・入金収入		
	会費収入(3000円*2017年度107名,2018年度以降126名)	699,000	699,000
2	事業収入		
	(5) 生活環境改善教育および国際協力に関する普及啓発事業		
	ア チャリティランチ収入	142,297	142,297
3	寄付金収入		
	寄付収入	22,000	
	寄付収入(箱根ロータリークラブ・ベトナム手洗い場修理)	115,000	137,000
4	その他の収入		
	フランス語教室	80,000	
	歩き方教室	176,000	
	お料理教室	11,000	
	利息収入	63	267,063
	経常収入合計		1,245,360
II 経常支出の部			
1	事業費		
	(1) 衛生に関する生活環境の改善支援事業	334,037	
	(2) 衛生面に関する生活環境の調査研究事業	233,705	
	(3) 生活環境改善支援事業	39,527	
	(4) 国際協力事業	198,014	
	(5) 生活環境改善教育および国際協力に関する普及啓発事業	222,205	
	(6) その他,この法人の目的を達成する為に必要な事業	0	
	事業費計		1,027,488
2	管理費		
	ア 会場賃貸費	2,200	
	イ 通信運搬費	19,744	
	ウ 印刷製本費	2,338	
	エ 事務用品費	13,914	
	オ 交通費	1,640	
	カ 事務局費用(保管費など)	44,916	
	キ 雑費	1,188	
	ク 会員研修費	72,000	
	ケ 租税公課	0	
	管理費計		157,940
	経常支出合計		1,185,428
	経常収支差額		59,932
(正味財産増減の部)			
III 1 資産増加額			
	当期収支差額(再掲)		
2 負債減少額			
	前受金(会員会費2018年度以降126名分)	378,000	-378,000
	増加額合計		-318,068
	当期正味財産増加額(又は減少額)		7,226,364
	前期繰越正味財産額		6,908,296
	当期正味財産合計		6,908,296

上記、2017年度の会計収支計算書を監査結果、妥当かつ正確であることを認めます。

2018年 9月 15日 NPO手を洗おう会aphw 監事 白石正明 

*2019年度の会費納入は12ページをご覧ください(この会報は2018年度会費納入の皆様へ配信しております)

事務局から:会報15版は、絵画展、ベトナムから絵画入賞者ご一家を世田谷美術館展へ招待 APHW活動「フランス革命時代に登場した数奇な運命の女性達」連載の第1回など多彩です。お楽しみ下さい。

2018年9月

会報担当: 北島桂子